



# ウィーン

2019年夏休み、  
日本を飛び出して  
新しい発見を  
しませんか!?

# 派遣高校生大募集!





荒川区の親善大使として、ホームステイを通じウィーン市ドナウシュタット区の高校生と互いの言語や文化を学び合い、国際的な視野を広げませんか！？  
荒川区国際交流協会はチャレンジする高校生を応援します！

#### 派遣先

オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区

#### 派遣日程

2019年7月26日(金) ~ 8月6日(火) 10泊12日間(予定)

#### 活動内容

ウィーン市およびその近郊の施設見学・学習、ホームステイ、  
帰国後の報告書作成、派遣報告

#### 参加費用

約16万円

(予定経費【渡航費、宿泊費、食費等】の約1/2相当)  
お支払方法は一括払いのみとなります。

#### 対象

荒川区内在住の高校生 6人(書類と面接で選考)  
8月中旬~下旬にドナウシュタット区の高校生を  
家に受け入れることができる方

#### 応募方法

応募書類を協会事務局に持参または郵送  
2019年5月7日(火)(必着)

#### 申込み・問合せ

荒川区国際交流協会事務局

〒116-8501 荒川区荒川2-2-3 荒川区役所 文化交流推進課内  
(区役所 3階 1番窓口)

電話：3802-4805 メール：kokusai@city.arakawa.tokyo.jp

詳細は、荒川区国際交流協会のホームページをご覧ください。

<http://www.arakawa-kokusai.com/>

2020年の実施は未定となっています。

# ウィーン市ドナウシュタット区 2019年度 派遣高校生 募集要項



## 応募条件

- 申し込み時から派遣時を通じて区内に在住していること。
- ウィーンからの派遣生（男女問わず）のホームステイを受け入れること。（8月中旬～下旬）
- 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣終了後も荒川区国際交流協会のボランティア会員として事業に協力できること。
- 健康で、海外生活やホームステイ、団体行動、交流事業に対応できること。
- 日本の生活や文化、荒川区について積極的に紹介できること。
- 保護者の同意が得られること。
- 英検3級程度以上の英会話力があること（公用語はドイツ語）。
- 事前研修会および事後報告会にすべて参加できること。
- 研修終了後も荒川区国際交流協会の事業にボランティアとして協力できること。



## 応募書類

- 参加申込書一式（区役所・区内図書館・区民事務所で配布）
- 作文「私が考える国際交流」（原稿用紙3枚、1000～1200字程度、手書き）
  - 作文には、次の項目を必ず記述してください。（1）ウィーンに関して興味があるテーマ、（2）テーマに関してウィーンへ行ったらやりたいこと。



## 選考日程

- 5月7日（火） 応募書類受付締め切り
- 5月14日（火） 書類審査結果および選考面接時間通知発送
- 5月18日（土） 荒川区役所にて面接審査
- 5月21日（火） 審査結果通知発送

派遣決定後に、健康上の理由または派遣に不都合な理由が生じた場合、派遣の資格を取り消すものとします。派遣資格が取り消された場合、または派遣者の都合により取りやめた場合、それまでに要した経費および取消に係る経費は応募者の負担となります。



## 説明会・研修

- 内定者説明会 5月29日（水）18時～（場所：荒川区役所）予定 出席者：保護者・派遣生
- 事前研修会 6月中旬～7月下旬 計3回程度予定 出席者：派遣生  
（内容：異文化コミュニケーション、ドイツ語研修、OB・OGとの交流）
- 出発式 7月下旬予定 出席者：派遣生
- 派遣報告・受入説明会 8月中旬予定 出席者：保護者・派遣生
- 事後報告会 9月下旬～ 計3回程度予定（派遣報告集の作成）

事後報告には3月初旬開催予定の荒川区国際交流協会主催「外国人のための日本語スピーチ大会」の運営補助を含みます。

# ～2018年度派遣生の声～

Q. 英語は大丈夫だった？



A. Tさん 私はホームステイの経験がなく、行く前は英語が苦手です。上手にやり取りができるか不安でしたが、慣れていくうちになんとなくわかるようになりました。

Q. ウィーンで学んだことは？



A. Kさん プログラムの中ではウィーンの様々な文化的な名所を巡り、教養が実体験とともに身につきました。特にウィーンのアート史博物館を訪れた際は感動しました。

A. Kさん ウィーンのカフェ文化は2011年に世界無形文化遺産に登録されていて、ウィーンの観光スポットとして、他の国の観光客も多く足を運んでいるのを見られました。

Q. ウィーンのアートファミリーの様子はどうだった？



A. Kさん 私は、コミュニケーションに不安があったけれども、何でも親切に教えてくれて、「あなたは、私の妹よ」と言ってくれたのは、とてもうれしかったです。

Q. ウィーンの高中生を受け入れた時は？



A. Kさん ウィーンの高中生を受け入れる心構えとして、なるべく地元の人、荒川区民のような暮らしを体験できるように心がけました。

A. Mさん 日本人にとっては普通のこと、外国人にとっては普通ではないことに改めて気づかされ、文化の違いや生活の違いはとても面白いなと思いました。